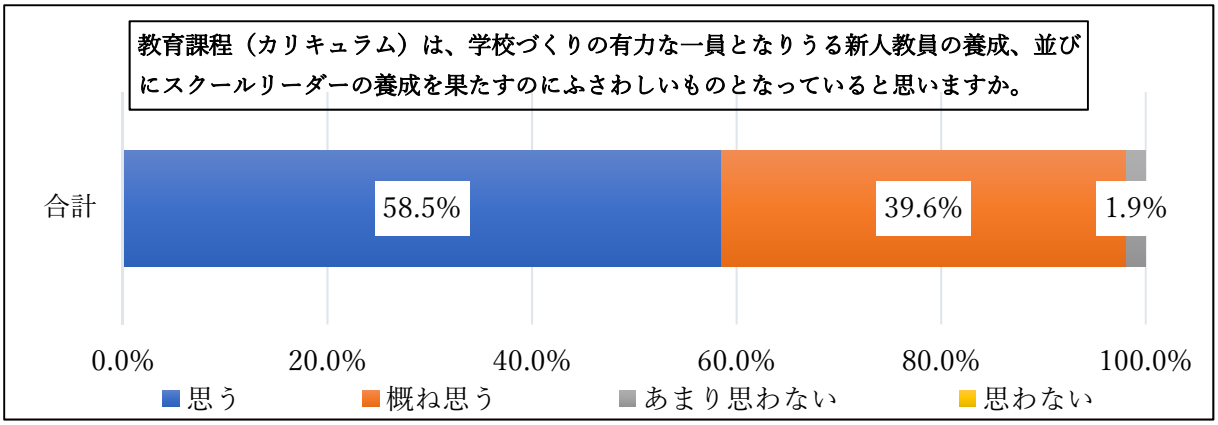
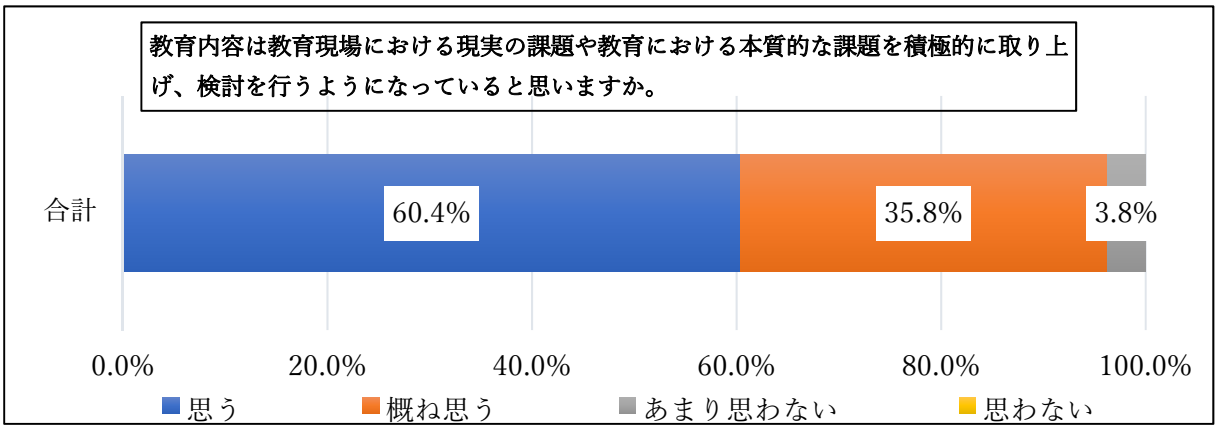
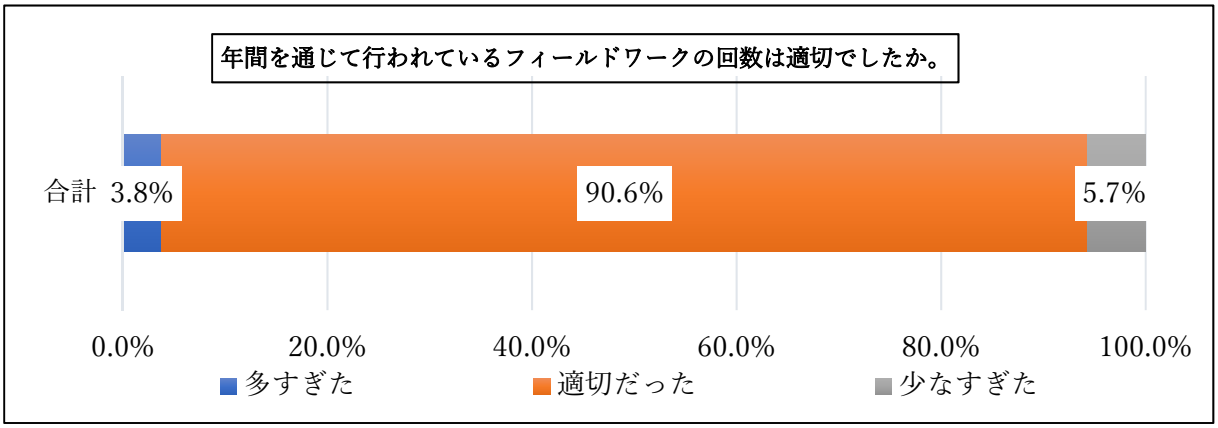
2024 年度「研究科アンケート」

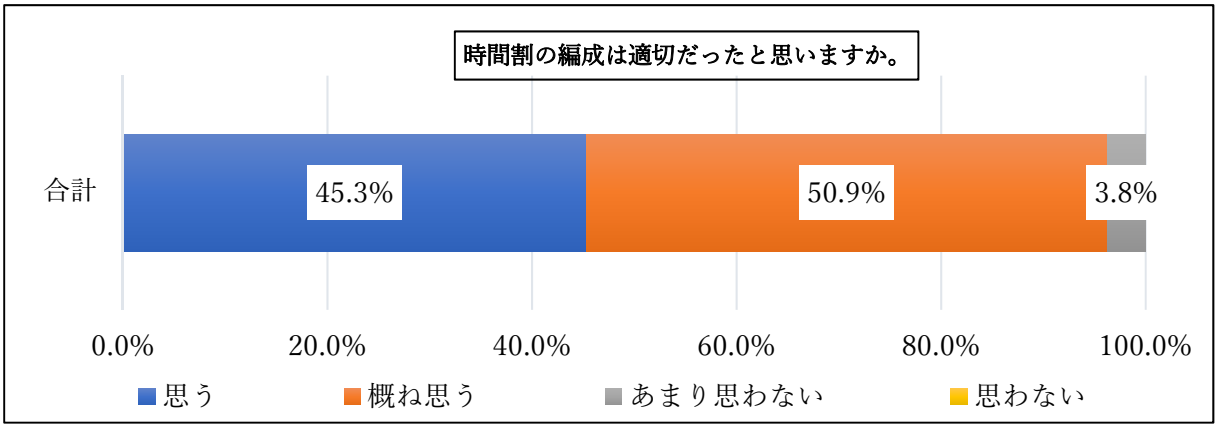
2024 年度の研究科アンケートは 2025 年 3 月に実施され、在学生 34 名、修了生 19 名、計 53 名から回答が得られた。回答結果の傾向及び特徴について、設問区分ごとに以下にまとめる。

(1) 教育課程について



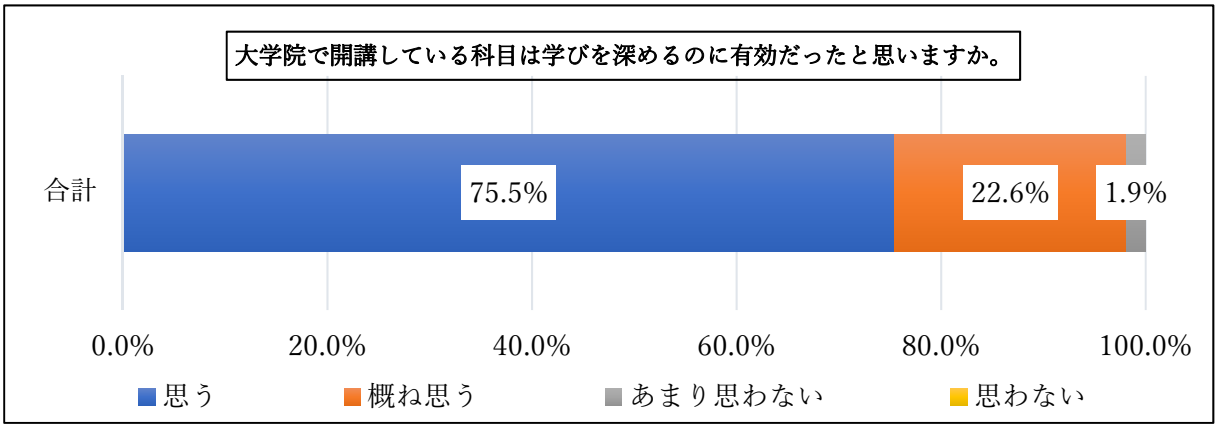


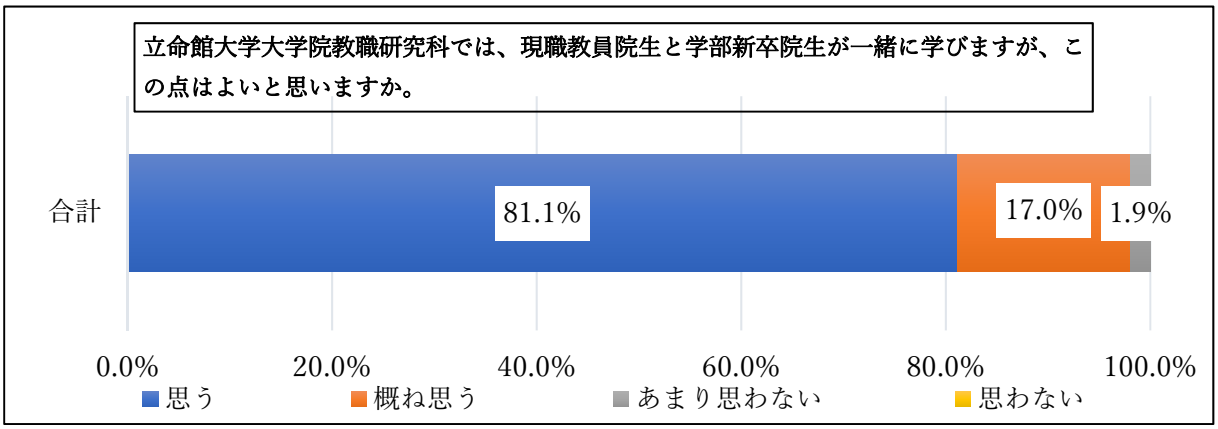


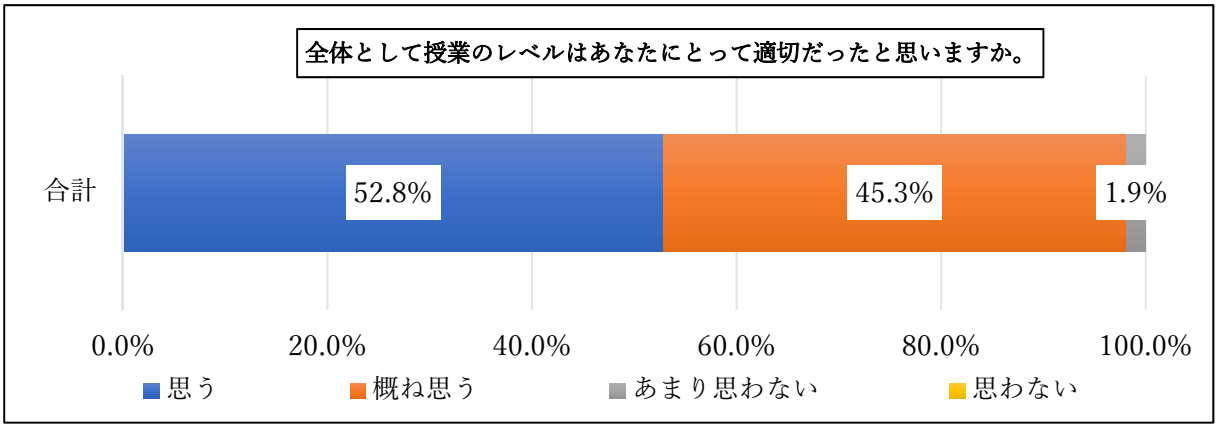


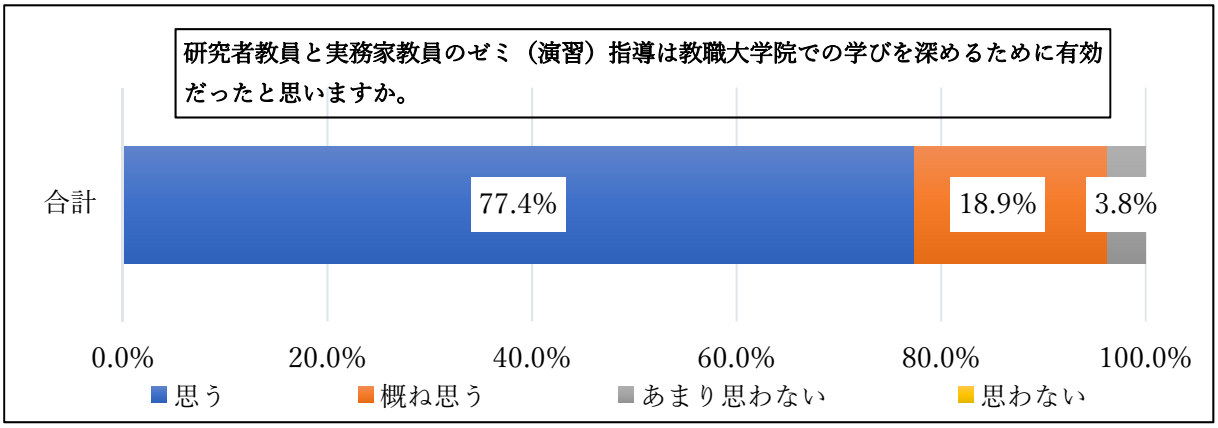
「教育課程について」は、前年度と同様に、肯定的な回答の割合が 9 割以上の良好な水準にある。フィールドワークについては、昨年一割弱あった「多すぎた」という回答が減少した。時間割についても、前年度とほぼ同様の結果になったが、オンライン受講制度を利用する社会人院生や、午前中に講師制度を利用している学部新卒院生等、多様な生活スタイルの中で学んでいる院生にとって学びやすい環境を追求していきたい。

(2) 授業について



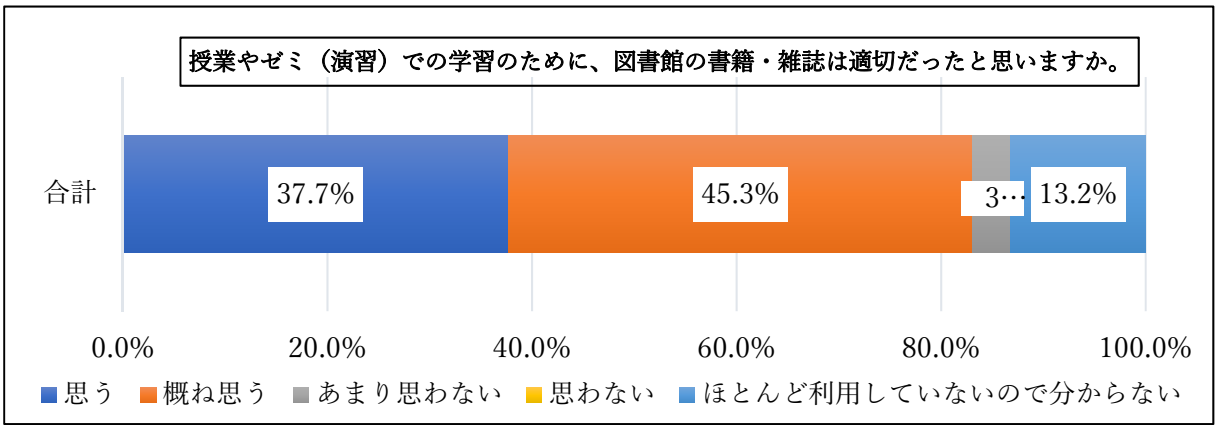


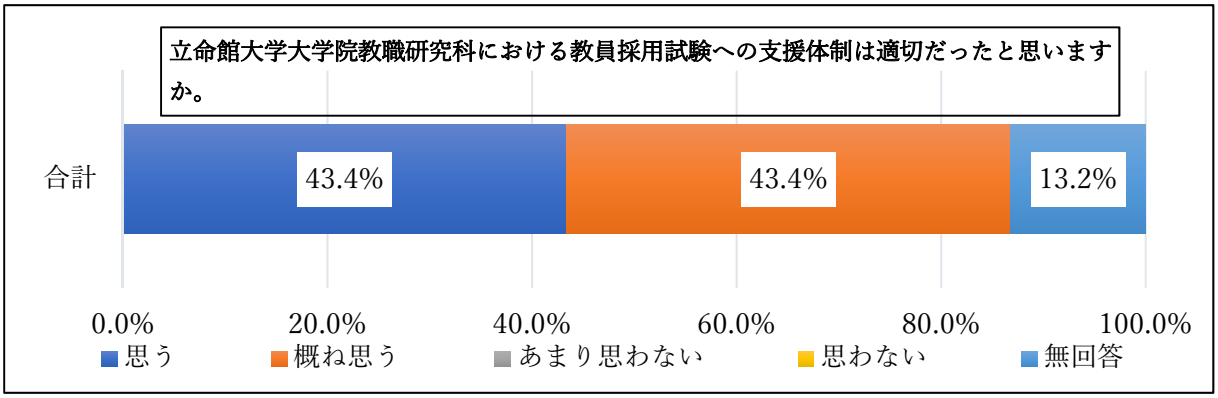


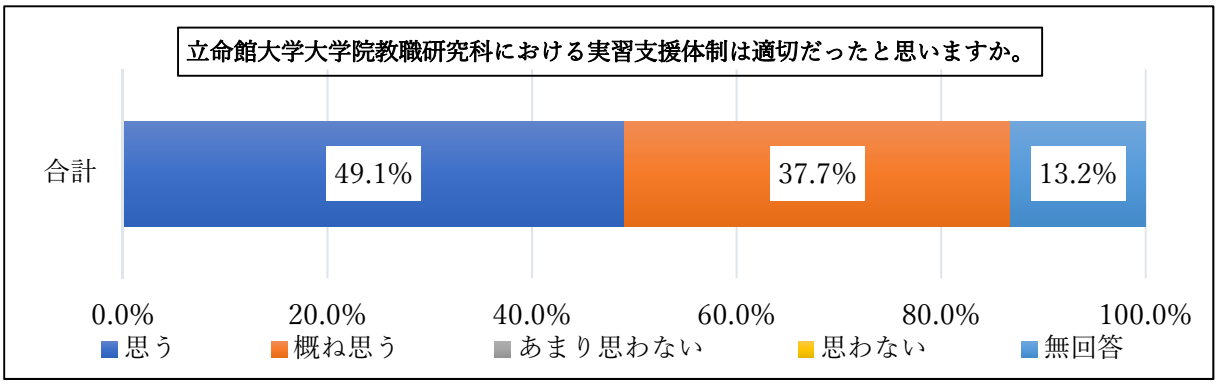


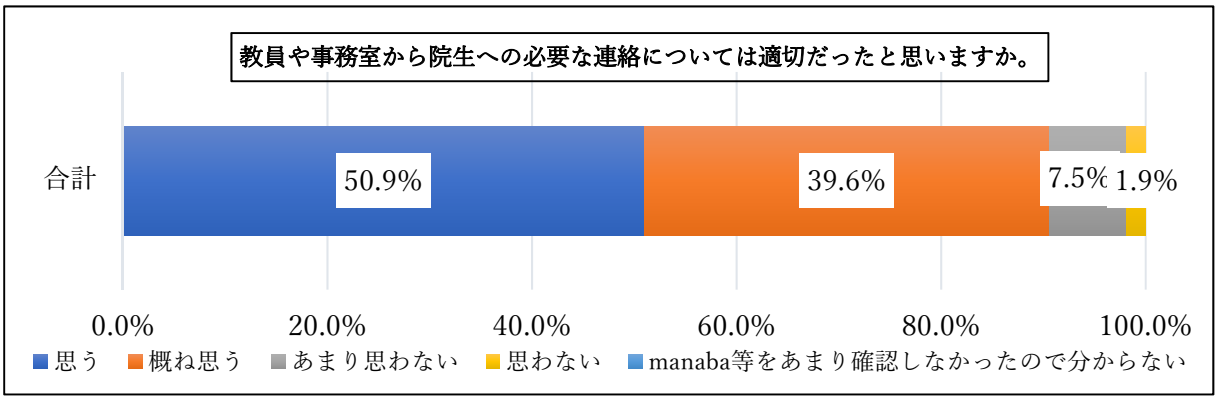
「授業について」の結果も、前年度と同様に、肯定的回答が 9 割以上の高い水準で維持されている。特に、昨年度と比べて「大学院で開講している科目は学びを深めるのに有効だったと思いますか。」という設問において、もっとも肯定的な回答が 13.2 ポイント増加した。2024 年度は新カリキュラムの完成年度であり、カリキュラム改革の一定の効果があったと考えられるが、さらに、その効果を検証していきたい。

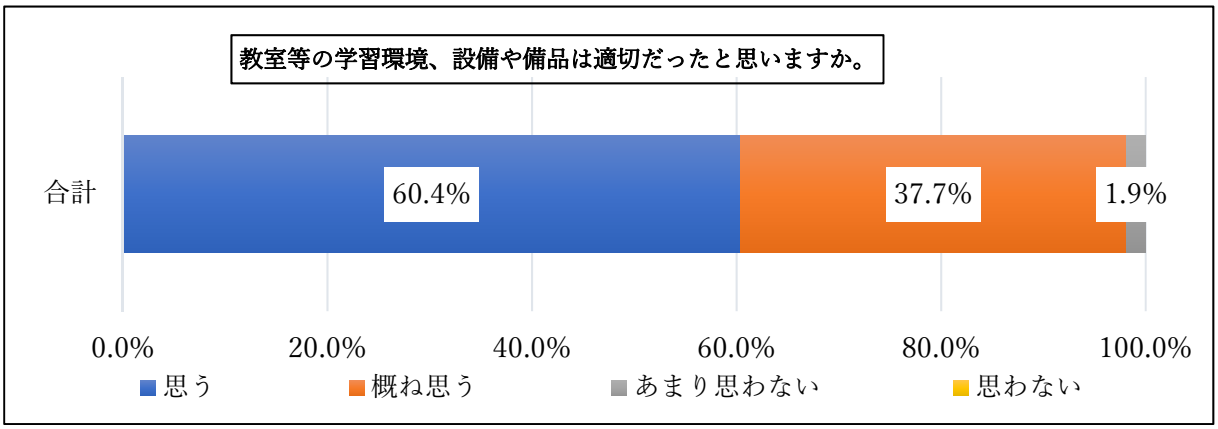
(3) 学生支援について







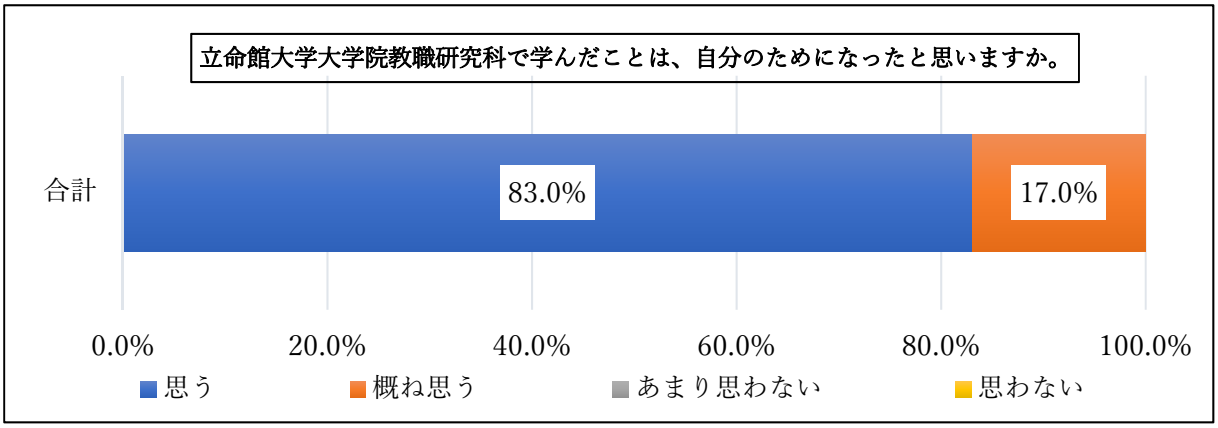


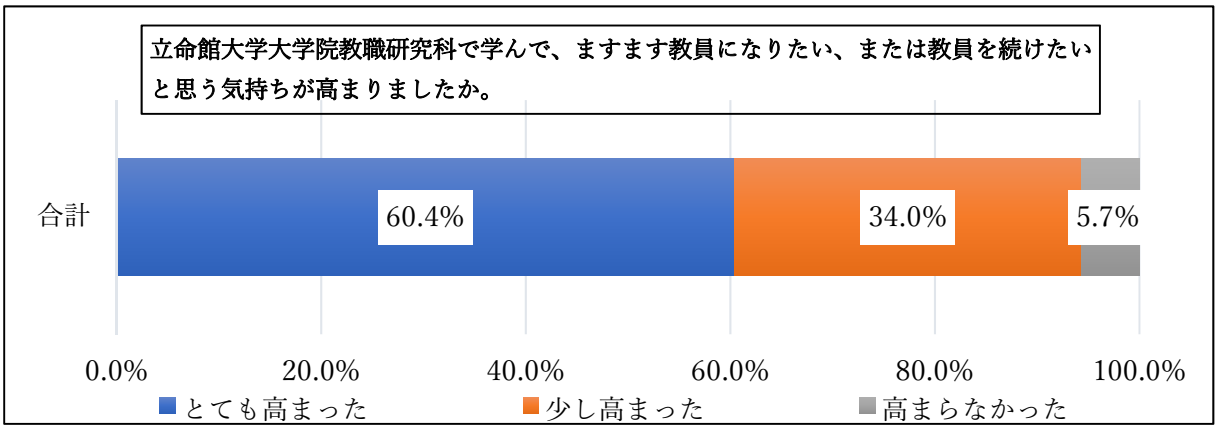


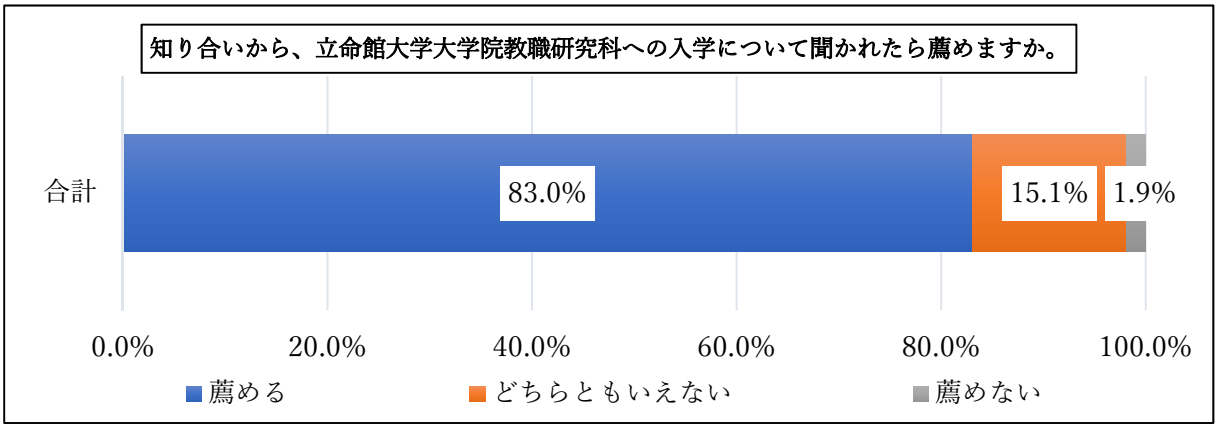
「学生支援について」は、いずれの項目も肯定的回答が 8 割以上となっているが、主にストレートマスターを対象とした内容項目（教員採用試験への支援や実習支援体制等）もあり、現職教

員院生による無回答が含まれている。関連する自由記述では、教員が親身になって手厚く指導してくれることを評価する意見がみられた。連絡体制や設備等については、今後オンライン受講生の増加や学年進行、新しい学習管理システムの全学的導入等、新しい状況に対応した支援体制を構築したい。

(4) 全体を通して







全体的な傾向としては、教職大学院での学びを通して自己の成長を実感するとともに、教職を志望あるいは継続する意欲の向上が図られている。他方で 5%の院生が教職の志望や継続度が高まらないという方向に回答しており、より個別的な支援が重要である。修了生の自由記述においては、教職大学院での学びを通して、教員の仕事のやりがいや面白さを発見したこと、また自信をつけたこと、さらには、理想の構築と具体的実現への展望がなされたこと等について語られ、

今後のさらなる学びの機会へとつながったことが推察される。また、自由記述においては、教育に関わる研究法を学びたい等の前向きな意見があり、これらに応えていく必要がある。